

N-1:参加者ネットワーキングセッション

開催日時 9月19日（水曜日）10:30-12:00 406(4階)

人材の定着と流動性についての考察

文部科学省の補助事業「研究大学強化促進事業」においても求められているように、近年研究大学を中心に多くの研究機関が、URAの無期雇用化を導入し始めている。大学をはじめ研究機関の研究力・組織力の向上に対し、雇用の安定化にはメリットがある一方で、優秀な人材の機関流動によって生じる研究力・組織力の向上やURA自身のキャリアの向上という構造に歯止めがかかることも危惧される。特に中小規模の大学や私立大学はこの人材の流動性によって支えられてきた点大きい。

そこで、当該セッションでは、URAの無期雇用化と流動性の両方の観点から、研究力・組織力の向上及びURAのキャリアについて、参加者とともにディスカッションしながら整理してみたい。

オーガナイザー



田中 有理：首都大学東京 総合研究推進機構 URA室 URA

国立大学、私立大学にそれぞれURAとして勤務、その後現職。現在は公立大学のURAとして、諸先輩方に学びつつ、スキルアップを目指しています。



石田 貴美子：同志社大学 研究開発推進機構 URAセンター URA

日本企業、海外法律事務所を経て2006年私立大学で研究関連業務に従事。2013年度より現職。URA人材の流動性による大学全体の研究力向上について検討したいと考えています。